

ぎんれいゆ会

平成三十年五月

初夏の神戸駅頭ケーナの音

主宰 細野恵久 福祉三期

学舎の昼餉に手製新茶あり

増田和子 食文一期

復旧の崖駆け上る鳶若葉

改正節夫 国際三期

新茶濃く傘寿漢の雨読かな

三枝邦光 美工五期

飲み干してボトル底まで新茶かな

國永靖子 音文六期

葉桜や内面醸す翁面

猿橋二三雄 福祉八期

恨を呑みイムジン河に春の兆

加藤善巳 美工八期

新茶汲む母の回忌を数えつつ

太田 實 国際十期

シーソーに二人と一人若葉風

大下絹子 国際十五期

天草の身にしむ絵踏物語

中村建生 国際十五期

泣き暮るる顔に新茶をすすめらる

藤本武子 国際十五期

諍いさかいも新茶で和む昼下がり

山下 進 国際十五期

水害の地よりの新茶長電話

許斐國照 食文十五期

鯉幟だんじりの上跳ねており

小淵政子 健福十六期

蝌蚪の水伊部の黛を映しけり

兼清久子 健福十七期

手揉み音微かに聞きつ新茶くむ

宮本公子 健福十七期

新所帯新茶淹るるもティーポット

沖本元辺子 国際十七期

少女像のフルート聞こゆ若葉風

香春早苗 国際十七期

子の子らも大人となりぬこどもの日

仲田愼輔 国際十七期

同じ夢語りし後の新茶かな

中村富美子 国際十七期

泉源の路地赤々と落椿

宮本眞貴子 国際十七期

アマリリス光源氏の棲めり跡

小栗恭子 健福十八期

龍井ろんちんの新茶の甘さ西湖せいこは雨

潮江敏弘 健福十八期

巨魚の住む四万十川に五月

野見山剛 健福十八期

物理学の方程式や新茶汲む

大山吉春 国際十八期

青柳や船頭泣かせの向い風

今井義和 美工二十期

ジーンズのはち切れさうに麦の秋

尾崎育久 美工二十一期

行終えて庫裡で作りし木の芽和え

黒木早苗 食文二十一期

兎の手から抜けた風船翁追ふ

宮脇暁美 食文二十一期

山萌えて耕運機の音目覚めし里

藤川敏子 国際二十二期

蒲公英や五色古墳と青空と

日種 晃 生環二十二期

第二百四十九回ぎんれい句会（五月十一日開催）より